

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370106621		
法人名	社会福祉法人 一寿会		
事業所名	グループホーム ゆうゆう館		
所在地	岡山市南区小串716-2		
自己評価作成日	令和2年11月4日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3370106621-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社One More Smile		
所在地	岡山県玉野市迫間2481-7		
訪問調査日	令和2年12月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれた環境、四季の流れを肌で感じ取れるゆっくりとした時間の流れと、家族的な雰囲気大切に、個々の自立した日常生活を過ごせるように手助けします。優しく責任を持った援助と統一された処遇の実践を目指します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然豊かな環境の中で、利用者がゆったりと過ごせるように支援している。近隣住民とのやり取りの中で日常的な関りを持ち、馴染みの関係を築いている。コロナ禍の面会制限のため利用者に変化があり、家族の支援が重要であることを再確認した。またコロナ禍で外出が制限されストレスを感じている利用者に対し、楽しい時間を過ごしてもらえるよう各ユニットで行事を計画し実施している。昨年までと開催の方法を変更した敬老会は利用者全員が参加し、アットホームな雰囲気の会となった。食事は既製品ではなく手作りにこだわり、職員も一緒に食べることで、利用者と職員の繋がりを大切にしていると感じられる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所、ホールに事業所理念を掲げ、職員をはじめ入居者、来客の方々にも理念の共有・実践につなげています。	理念を玄関や厨房など目につく場所に掲示し、共有している。また年間目標を決め、日々のケアに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方が、野菜・お花を届けてくれます。その際、ホールに上がって頂き、ご利用者と交流していただいています。又、日常的な散歩など地域の方と挨拶を交わしたり、立ち話をします。	近隣に住む人から野菜が届くこともあり、お礼に寿司を渡している。散歩やテラスで外気浴をしていると近所の人から声をかけられたり、挨拶を交わしたりする等、日ごろから交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の小学校教師、社会体験、研修を受入れ、民生委員の方々の施設見学、幼・小・中学校生徒の受入れを実施しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族間の情報交換にもなってきていると思います。ご家族の思い、アンケート結果を踏まえ、私達の反省点にもなっています。	現在は事業所の報告を書面で行っている。開催していた時には、家族との意見交換や参加者から他の事業所の話聞くこともある。災害時の対応についての提案があり、検討し取り入れた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	時間の許す限り介護保険課(市)福祉事務所への書類等は、郵送ではなく持参することにより、情報伝達事項を直接話し合う機会も作っています。	以前は市の担当者と直接やり取りをしていたが、コロナ禍のため、現在は気になることがあれば電話で質問や相談をしている。また市から送られた資料を基に研修を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ほぼ実践できていると思います。特に管理者会議では常に話し合っており、他職員には身体拘束をしないケアの実践をしています。	身体拘束をしないケアについての研修を年4回実施している。転倒予防のためドアに鈴をつけている事例があり、職員間で支援方法について検討し、現在の対応に決めた。また言葉がけについても、職員同士で注意をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止関連法に関する研修等に参加したり、関連資料は全員が把握できるように回覧しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修参加資料、本を活用するように伝達しています。又、入居者で制度を利用している方もあり、支援者と話し合うことにより学んでいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	どんな事柄にも、話ができる雰囲気にかけています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	インターネットの活用やご意見箱を設置しています。	意見箱を設置しているが、面会や電話の際に伝えてもらうようにしている。現在コロナ禍での面会について要望があり、窓越しでの面会を行うなど可能な限り要望を取り入れている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する意見までは出ていないのが現状ですが、職員の意見、提案は話し合いを行っています。	職員から入浴回数についての提案があり、責任者会議で検討し取り入れた。その結果入浴回数を変更し、ゆっくりと入浴できるようになり、利用者の満足に繋がった。	職員からの意見を取り入れ実施したことでゆとりが生まれ、利用者の満足に繋がったとのエピソードを聞くことが出来た。今後も職員の意見や提案を検討し、ケアに活かして欲しい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	雇用管理責任者講義に参加しています。個々の努力、実績、資格取得に勤務状況の把握をしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々に職員に合った研修を行っています。又、内外の研修案内が分かりやすいよう表示して、行きたい研修には援助体制があります。ホーム内研修を施行することで、徐々に実績を上げています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	個人的に情報交換、訪問等を行っています。代表者は管理者、職員が同業者と交流することに援助してくれます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	傾聴を中心に、ご本人の要望を正しく汲み取るように心がけています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相手の立場に立った援助と話し合いが出来る雰囲気作り心がけています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	傾聴を中心に生活歴、経済面等々、相手の立場に立った支援に心がけています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の思いを大切に、ご本人の思考に合った援助、声かけに意欲をもってもらえるように心がけています。共に楽しみ、共に悩みを共有することが出来るように援助します。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族、知人の方々に来所しやすい雰囲気作り心がけ、職員たちにも気持ちよい対応をと話し合っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者に来客がある場合、一緒に過ごして頂く為、その人に合った援助をしています。また、家族・知人の方々との絆を大切に、年賀状・手紙等の援助を行っています。	年賀状や手紙、電話のやり取りの支援を行い、馴染みの人との関係が途切れないように取り組んでいる。在宅時の近所の人が訪ねてくれたり、家族と自宅に帰ったりすることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションでは、全員に声を掛け、参加してもらっています。一人ひとりが孤立することなく過ごせるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族、ご本人の負担にならない程度、必要に応じて経過をフォローし相談にのっています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の気持ち、自己決定を一番に大切な思いとして援助しています。	なかなか言葉に出せない人には、表情や日ごろの様子、興味がある物への反応を見ながら、思いを汲み取るようにしている。利用者と家族の思いが違うこともあるが、なるべく本人の思いに沿えるように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	深く立ち入れないこともありますが、ご本人の過ごしてこられた暮らし方、生活歴等々傾聴を中心に把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の場で解っているつもりでも違っていることが多くあります。言動、顔付、行動等での把握も含め、問題行動の原因をさぐることにも心がけています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族との話し合う機会の少ない方々は困難な場合が多いが、意見やアイデアは反映できるよう努力していきたいです。	一つの柱となる目標を立て、いろいろな取り組み方法から、利用者が安心安全に過ごすにはどうすればよいかを考え、プランに反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	問題が発生すれば、即対応できるよう工夫すると共に、個別記録・連絡帳に記入し、職員全員が理解でき、実践や介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ユニット会議において色々な意見や参考資料で検討すると共に、職員に回覧し問題意識として共有します。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の四季の行事、お花見、盆踊り、獅子舞、秋祭り、紅葉ドライブ等の行事は出来るだけ参加しています。今後、地域の行事の出席も考えています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	いつでも相談できる主治医がいます。月2回、訪問診療及び往診にも応じてもらっています。又希望があれば、どの医療機関の受診援助体制もあります。	家族の協力を得ながら、かかりつけ医への受診支援を行っている。また、往診や訪問診療を受けられることや協力医の24時間体制での対応もあり、利用者・家族の安心に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	問題発生時、相談・対応ができます。又、介護者も状況を正しく判断できるように観察力を身に付けるよう努力しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時の情報交換は、密に出来るよう時間の許す限り、入院先の病院へ来院して、今後の対応を把握するように努めます。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	いずれ来るであろう重度化や終末期のあり方について、ご家族が集まる運営推進会議に課題として取り上げています。又、ご本人の状況において、ご家族と話し合いを行っています。	重度化や終末期の対応について、入所時に説明している。また緊急時の対応について希望を聞き、書面で保管している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム内や外部の研修会へ参加することで、急変や事故発生時に備えています。又マニュアル、連絡網等が何時でも見えるように所定の場所に置いています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急連絡網対策を表示し、火災に関して年に2回の避難訓練の実施をしています。又、全管理者が防火管理者資格を持ち、資料は全員に伝達しています。	隣接の研修施設を避難場所とし、避難訓練を実施している。移動時の注意点など対策が具体化し、災害時に備えている。また、災害時には交通が遮断されることが考えられるため、食品などの備蓄も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの保護に関する書に職員全員に誓約書に捺印、署名を交わしています。尊重を損ねない対応に心がけています。	利用者のこれまでの業績を共有し、労いの言葉をかけることもある。トイレのドアにノックをしてと掲示したり、居室の入り口にのれんを使用したりなど、プライバシーの確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	小さな自己決定も見逃さないよう心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりその日をどのように過ごしたいか希望に添った援助に心がけ付きとしています。又、意思表示できない方には、特に目配り、気配り、心配りを配慮します。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしくすごせるように支援しています。希望があれば、職員が散髪を行い、信頼関係を深めるよう役立てています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員全員が順番にメニュー作成により、ご利用者の意見を参考に献立を立てます。イベント、誕生会には特別メニューで喜ばれています。	以前は外食に行くこともあったが、コロナ禍のため中止している。毎月日にちを決めて寿司を作ったり、好きなフルーツを選んでパフェを作ったりと食事を楽しむ支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人の摂取量は、その人に合った状態を把握しています。又やわらかいもの、細く刻み、とろみを付けその人に合った調理方法をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨き、うがい、手洗い等援助を行っています。義歯洗浄剤にて殺菌を行い、口肉炎、歯肉炎等の発生を防いでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期誘導の他に、その人々に合った声掛けや誘導を行い、排泄による失敗の軽減を図ります。	排泄チェック表を使用し、定期的にトイレ誘導を行っている。またトイレには、利用者が分かりやすいように大きな文字でトイレと表記し、排泄の自立支援に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表で職員全員が把握して適切に行っています。意思表示が出来ない方は、排泄チェック表を見ながら、飲食物の工夫を行ったり、腹部マッサージを行い、自然排泄を促しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴のタイミングや楽しめる工夫をしていますが、個々で曜日、時間帯に合わせた支援はできていません。	入浴回数を変更したことにより、ゆっくりと過ごせたり、その人の希望に沿ったタイミングで入浴ができるようになった。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠、休息に関してご本人の気持ち、思いに配慮できるよう心がけています。体に乾燥肌、発疹等があり、電気毛布が使えない方、湯たんぽを使用してもらっています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の薬、説明書を職員全員が把握できるように配置しています。個人の服用中の薬、説明書はいつでも解かるように所定の場所に置いています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割やより多く楽しみごとを見付けられるよう心がけています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その人の要望、その人に合った外出支援を行っています。法事、墓参り、外食等ご家族と協力して行われています。	近隣への散歩や、花見・紅葉狩りなどに出かけている。気候のいい時はテラスで外気浴を行い、おやつを食べることもある。初詣の計画を立て、実施する予定である。	コロナ禍の中、感染予防に気をつけながら初詣の実現に期待を寄せる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の要望でお金の所持、買物等は支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の要望で、自由に電話、手紙等の支援をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を生け、居心地のよい空間づくりに心がけ湿度・温度には、快適に過ごせるよう、見えよいところに貼り付けています。	換気や空気清浄機、加湿器を設置し、十分に換気を行い感染症対策をしている。また好きな人同士での席やテレビが見やすいようにソファを設置するなど、居心地の良い共有空間づくりに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	穏やかにのんびりとすごせるように心がけ、音楽を流したりしています。長椅子に座り、思い思いに過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に慣じみの品物を持参下さるよう説明します。茶碗、箸、お椀、コップは、ご本人に気に入ったものを持参願います。	DVDやポスター、仏壇や家具など、馴染みの物を持ち込んでもらい、居心地よく過ごせる居室の工夫を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その人に合った環境づくりに心がけています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370106621		
法人名	社会福祉法人 一寿会		
事業所名	グループホーム ゆうゆう館		
所在地	岡山市南区小串716-2		
自己評価作成日	令和2年11月4日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaikokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3370106621-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社One More Smile		
所在地	岡山県玉野市迫間2481-7		
訪問調査日	令和2年12月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれた環境、四季の流れを肌で感じ取れるゆっくりとした時間の流れと、家族的な雰囲気大切に、個々の自立した日常生活を過ごせるように手助けします。優しく責任を持った援助と統一された処遇の実践を目指します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所、ホールに事業所理念を掲げ、職員をはじめ入居者、来客の方々にも理念の共有・実践につなげています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方が、野菜・お花を届けてくれます。その際、ホールに上がって頂き、ご利用者と交流していただいています。又、日常的な散歩など地域の方と挨拶を交わしたり、立ち話をします。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の小学校教師、社会体験、研修を受入れ、民生委員の方々の施設見学、幼・小・中学校生徒の受入れを実施しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族間の情報交換にもなってきていると思います。ご家族の思い、アンケート結果を踏まえ、私達の反省点にもなっています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	時間の許す限り介護保険課(市)福祉事務所への書類等は、郵送ではなく持参することにより、情報伝達事項を直接話し合う機会も作っています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ほぼ実践できていると思います。特に管理者会議では常に話し合っており、他職員には身体拘束をしないケアの実践をしています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止関連法に関する研修等に参加したり、関連資料は全員が把握できるように回覧しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修参加資料、本を活用するように伝達しています。又、入居者で制度を利用している方もあり、支援者と話し合うことにより学んでいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	どんな事柄にも、話ができる雰囲気にかけています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	インターネットの活用やご意見箱を設置しています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する意見までは出ていないのが現状ですが、職員の意見、提案は話し合いを行っています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	雇用管理責任者講義に参加しています。個々の努力、実績、資格取得に勤務状況の把握をしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々に職員に合った研修を行っています。又、内外の研修案内が分かりやすいよう表示して、行きたい研修には援助体制があります。ホーム内研修を施行することで、徐々に実績を上げています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	個人的に情報交換、訪問等を行っています。代表者は管理者、職員が同業者と交流することに援助してくれます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	傾聴を中心に、ご本人の要望を正しく汲み取るように心がけています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相手の立場に立った援助と話し合いが出来る雰囲気作り心がけています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	傾聴を中心に生活歴、経済面等々、相手の立場に立った支援に心がけています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の思いを大切に、ご本人の思考に合った援助、声かけに意欲をもってもらえるように心がけています。共に楽しみ、共に悩みを共有することが出来るように援助します。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族、知人の方々に来所しやすい雰囲気作りに心がけ、職員たちにも気持ちよい対応をと話し合っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者に来客がある場合、一緒に過ごして頂く為、その人に合った援助をしています。また、家族・知人の方々と絆を大切に、年賀状・手紙等の援助を行っています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションでは、全員に声を掛け、参加してもらっています。一人ひとりが孤立することなく過ごせるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族、ご本人の負担にならない程度、必要に応じて経過をフォローし相談にのっています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の気持ち、自己決定を一番に大切な思いとして援助しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	深く立ち入れないこともありますが、ご本人の過ごしてこられた暮らし方、生活歴等々傾聴を中心に把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の場で解っているつもりでも違っていることが多くあります。言動、顔付、行動等での把握も含め、問題行動の原因をさぐることにも心がけています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族との話し合う機会の少ない方々は困難な場合が多いが、意見やアイデアは反映できるよう努力していきたいです。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	問題が発生すれば、即対応できるよう工夫すると共に、個別記録・連絡帳に記入し、職員全員が理解でき、実践や介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ユニット会議において色々な意見や参考資料で検討すると共に、職員に回覧し問題意識として共有します。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の四季の行事、お花見、盆踊り、獅子舞、秋祭り、紅葉ドライブ等の行事は出来るだけ参加しています。今後、地域の行事の出席も考えています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	いつでも相談できる主治医がいます。月2回、訪問診療及び往診にも応じてもらっています。又希望があれば、どの医療機関の受診援助体制もあります。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	問題発生時、相談・対応ができます。又、介護者も状況を正しく判断できるように観察力を身に付けるよう努力しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時の情報交換は、密に出来るよう時間の許す限り、入院先の病院へ来院して、今後の対応を把握するように努めます。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	いずれ来るであろう重度化や終末期のあり方について、ご家族が集まる運営推進会議に課題として取り上げています。又、ご本人の状況において、ご家族と話し合いを行っています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム内や外部の研修会へ参加することで、急変や事故発生時に備えています。又マニュアル、連絡網等が何時でも見えるように所定の場所に置いています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急連絡網対策を表示し、火災に関して年に2回の避難訓練の実施をしています。又、全管理者が防火管理者資格を持ち、資料は全員に伝達しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの保護に関する書に職員全員に誓約書に捺印、署名を交わしています。尊重を損ねない対応に心がけています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	小さな自己決定も見逃さないよう心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりその日をどのように過ごしたいか希望に添った援助に心がけ気付きとしています。又、意思表示できない方には、特に目配り、気配り、心配りを配慮します。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしくすごせるように支援しています。希望があれば、職員が散髪を行い、信頼関係を深めるよう役立てています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員全員が順番にメニュー作成により、ご利用者の意見を参考に献立を立てます。イベント、誕生会には特別メニューで喜ばれています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人の摂取量は、その人に合った状態を把握しています。又やわらかいもの、細く刻み、とろみを付けその人に合った調理方法をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨き、うがい、手洗い等援助を行っています。義歯洗浄剤にて殺菌を行い、口肉炎、歯肉炎等の発生を防いでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期誘導の他に、その人々に合った声掛けや誘導を行い、排泄による失敗の軽減を図ります。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表で職員全員が把握して適切に行っています。意思表示が出来ない方は、排泄チェック表を見ながら、飲食物の工夫を行ったり、腹部マッサージを行い、自然排泄を促しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴のタイミングや楽しめる工夫をしていますが、個々で曜日、時間帯に合わせた支援はできていません。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠、休息に関してご本人の気持ち、思いに配慮できるよう心がけています。体に乾燥肌、発疹等があり、電気毛布が使えない方、湯たんぽを使用してもらっています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の薬、説明書を職員全員が把握できるように配置しています。個人の服用中の薬、説明書はいつでも解かるように所定の場所に置いています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割やより多く楽しみごとを見付けられるよう心がけています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	その人の要望、その人に合った外出支援を行っています。法事、墓参り、外食等ご家族と協力して行われています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の要望でお金の所持、買物等は支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の要望で、自由に電話、手紙等の支援をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を生け、居心地のよい空間づくりに心がけ湿度・温度には、快適に過ごせるよう、見えよいところに貼り付けています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	穏やかにのんびりとすごせるように心がけ、音楽を流したりしています。長椅子に座り、思い思いに過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に慣じみの品物を持参下さるよう説明します。茶碗、箸、お椀、コップは、ご本人に気に入ったものを持参願います。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その人に合った環境づくりに心がけています。		